

第57号

発行：令和5年4月

会員数：157名（3月末現在）

（家族会員=13名、個人会員=144名）

発行責任者：田中 恆（ひさし）

編集責任者：出口 孝次

松浦武四郎記念館友の会

友の会だより

友の会事務局：

松阪市小野江町 383

松浦武四郎記念館内



「友の会」のHPは、松阪市HPの中にあります。

観光文化スポーツ → 文化情報・施設 → 松浦武四郎記念館 → 松浦武四郎記念館友の会について

（松阪市で検索してね）

松浦武四郎について

田中 恆

松浦武四郎記念館友の会に入会し13年になります。

昨年までは、新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた取り組みとして、3蜜（密閉空間、密集空間、密接場面）を避けるため、定期総会の中止、神鏡を訪ねるバスの旅の日程変更、松阪偉人顕彰団体協議会の総会・同会開催の偉人発見ウォーク等あらゆる会に及んでいます。

今年度は、武四郎ウォークを開催いたします。日時については未定ですが決まり次第連絡させていただきます。

さて、この13年間で、もっとも記憶に残っているのは、北海道の旅（天塩川方面の旅、釧路方面の旅）で地元の方との交流と、アイヌ民族の生活・暮らし、また松浦武四郎を支えた絆など強く印象に残っています。

そして、2020年7月12日にオープンしたウポポイの国立アイヌ民族博物館など南北海道（小樽、函館など）へ一度旅をと考えています。

今年は、第3回拓本体験会の開催しました。また、武四郎まつり（2月26日）等たくさんの方で、武四郎ブースにも多くの人に見に来て頂きました。風が非常に強く寒い中での開催となりました。

今年度も、神鏡を訪ねる旅をと考えております。予定は役員会で一度計画させていただきます。

最後に、まだまだ新型コロナウイルスの感染が広がっています。そして、この夏の熱中症対策についても充分気をつけていただき、活動への参加をお願いいたします。



第三回 拓本体験会を開催！

2023年（令和5年）1月28日（土）9:30から松浦武四郎記念館多目的室にて、西村欣也さんを講師に招いて、四五百の森（よいほのもり）拓本会の会員の方のご指導のもと、拓本の体験会を行いました。

今年の作品は、少し難しい絵や文字にチャレンジしたものもあり、今までにない出来映えでした。



第三回拓本体験会に参加して

村田 恵理子

今年1月28日(土)に拓本体験会に参加しました。「友の会」だよりはいつも参加者募集が載っていましたが、今一步踏み切れないでいました。前会長の飯田さんに「空いているので参加しませんか」とお誘いいただき、始めて参加させていただきました。

講師の西村欣也先生の説明をお聞きして作業を始めました。初めてでもきれいに取れるはどれかなと思い、お盆にアイヌの切り絵のような模様を選びました。

和紙を切ってもらって、霧吹きして、紙の皺を伸ばし、濡れタオルで押さえて空気を抜いていき、さらにブラシを手拭いで巻いて紙の上をしっかりとたたき、へこんだところに紙を張り付けていきます。紙が乾いてきたらタンポで墨をたたいて線をしっかりと浮かび上がらせます。

これらの作業を「四五百の森拓本会会員」の皆さんにも親切に教えていただき、まあまあの拓本が取れました。でも慣れない私は、墨の濃さにむらが出ています。周りの皆さんは線もくっきりして、墨がきれいに載っていました。

「花岡公民館でも公民館講座でやってます」といわれたので、2月から講座に参加して、またいくつかの模様の拓本に挑戦しています。今後は、野外にも拓本を取りに行けたらと楽しみにしています。

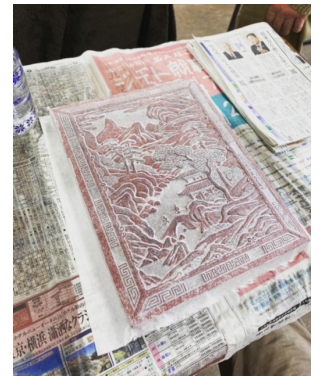


拓本体験会に参加して

佐藤 圭祐

今回初めて参加させていただきました、松浦武四郎記念館の佐藤です。恥ずかしながら拓本自体が初めてでして、何もわからない状態のまま、呼び掛け人である友の会の出口孝次さんをお願いして興味本位で参加しました。

初心者なりに、拓本の過程で顔や衣服に墨をつけてしまって心配されたらまずいと思い、せめて服装は、靴も含めて始めから全身ブラックで臨みました。当日は、講師の西村欣也先生をはじめ、四五百の森の拓本会会員の皆さまが手順を懇切丁寧に指導してくださったおかげで、トラブルもなく、なんとか作品を仕上げる事が出来ました。題材は初心者向けの仏像十二神将の関係と浮世絵を選びました。また次回以降、少しずつ難しい題材に挑戦していきたいです。四五百の森の拓本会および主催してくださった松浦武四郎記念館友の会の皆さま、このたびは大変貴重な機会を設けてくださりありがとうございました。



水で紙を貼り付けたばかりの状態です。この後、タンポで墨を付けます。
(これは、佐藤さんの作品ではありません)

拓本体験会の作品展示会を武四郎誕生地で！

令和5年3月1日から1ヶ月間、松浦武四郎誕生地において、拓本体験会で制作された作品の展示会を実施いたしました。

今回で3回目となり、少しずつ作品のバリエーションも増えてきて、楽しんで見てもらうことができたのではないのでしょうか。



お客様がいらっしやっただので、パチリ！
しっかり見て頂き、「素晴らしいね」とお褒めの言葉を頂きました。





力作ぞろい！矢張り3回目になると違うね！

第28回武四郎まつり開催！

令和5年2月26日(日)に、武四郎まつりが行われました。

コロナウィルスの感染拡大が止まらず、2年間中止を余儀なくされた為、本当に久しぶりに活気が戻ってきた松浦武四郎記念館には、強風の為ものすごく寒い日にもかかわらず、多くの来場者がつめかけました。

友の会としても、毎年ブースを出して、活動を見てもらう機会としていたので、今回も展示ブースを設営させていただきました。多くの方に記念館に友の会ありとアピールできたのではないかと思います。



前日にこどもの城で行われたウレシパクラブの方々のアイヌ文化体験交流会！



無料で入館したみなさんでしたが、熱心に耳を傾けてくださいました。



浜口様の武四郎とアイヌの木製作品や友の会の活動写真などを展示したブースを見に来てくださった皆様ありがとうございました。

【記念館からのお知らせ】

☆記念館講座のご案内

- 4月 9日(日)10:00 から テーマ:「武四郎の天神信仰」 講師:山本命
5月14日(日)10:00 から テーマ:「武四郎にとっての西行法師」 講師:佐藤圭祐
6月11日(日)10:00 から テーマ:「豆遊日誌を読むー日米和親条約の裏側」 講師:山本命
7月 9日(日)10:00 から テーマ:「下田日誌を読むー日露和親条約の裏側」 講師:山本命
8月13日(日)10:00 から テーマ:「武四郎と五街道」 講師:佐藤圭祐

☆企画展示のご案内

4月 7日(金)～6月 4日(日)「武四郎の天神信仰」

内容:武四郎は明治時代に、直径が1m、重さが100kgを超える巨大な銅鏡を作り、天満宮へ奉納するなど、菅原道真の信仰に熱心であり、そうした武四郎の天神信仰の様子を紹介します。

6月 9日(金)～7月23日(日)「武四郎とアイヌ」

内容:武四郎は幕末に6度に及ぶ蝦夷地調査を行い、アイヌの人々と深く交流しました。アイヌ民族資料として国内で初めて重要文化財に指定された資料を中心に、アイヌ文化を紹介します。

7月28日(金)～9月24日(日)「武四郎と五街道」

内容:武四郎は生涯を旅に生きました。琉球王国と隠岐国を除く日本各地を旅した姿を紹介します。

【友の会よりのお知らせ】

2023年5月14日(日)に「総会」を行います。

記念館講座の後で「令和5年度松浦武四郎記念館友の会総会」を行う予定です。コロナ禍ですので、昨年同様、報告会になる可能性もありますが、どうかご出席頂きますようお願い申し上げます。

行動制限が無い日が戻ってきて、活発に活動できるようになり、武四郎記念館でも、皆様の期待に応えられるような取り組みをしていきたいと思っています。
今後ともよろしくお願い致します。



●松阪市の偉人たち展！

友の会として、展示ブースを出します。見に来てくださいね。

日時 2023年(令和5年)8月(詳しくは未定です。今年は夏休み中です)

場所 松阪市文化財センター展示室



会費納入のお願い

令和5年度の年会費を、5月の総会で納めていただきます。8月までに納付いただきますようお願いいたします。今後、口座振込みをご希望の方は、記念館事務局 0598-56-6847へお問い合わせください。

次回の発行は、8月の予定です。



聖蹟二十五霊社

道明寺には、道真公のおば様であります覚寿尼公がお住まいになられていました。

その覚寿尼公のおいにあたられます道真公は、幼少の頃から和魂漢才の人といわれ、5才にして和歌を詠まれ、11才にして漢

詩を作られました。そして、40才の4月より7月まで当地にご滞在され、^{せいはいくじえんけん}の水を汲み 青白磁円硯により、五部の大乘経を写されました。その経塚から、胚芽が経巻の形をした「もくげんじゅ」が生え、謡曲「道明寺」にも有名になりました。

また、宇多上皇の大和河内御巡幸の際にも、当地にお伴され、「雨中錦を衣て故郷に帰る」と、漢詩に詠まれたことから、公はこの地を第二の故郷として慕われていました。

やがて57才にして従二位右大臣に進まれましたが、無実の罪で九州 大宰権帥 ^{だざいのごんのそち}として淀川を下られる舟の中でも、世につれて浪速入江にもごるなり 道明らけき寺ぞこひしき

と詠まれ、道明寺の訪問を許されました。そして、この道明寺で覚寿尼公との別れを惜しまれ、八葉鏡にお姿を映されてで自像を荒木に刻まれ、鳴けばこそ別れも憂けれ鶏の音の なからん里の暁もかな

との御歌を残されて西海に赴かれました。この歌から、道明寺に住む者は鶏を飼わないという信仰が続いています。

公は無実の罪であっても、ひたすら謹慎のまことを尽くされましたが、延喜3(903)年2月25日に59才で亡くなりました。その後天曆元(947)年に残し置かれた木像を北丘にお祀りし、ご遺品をご神宝として安置し、土師寺を道明寺と改称、延慶

3(1310)年には西琳寺の僧 ^{ばんあ} 鑲阿 に神託があり八葉鏡に勅封を賜りました。

近世以降の発展

天正3年(1575)当国高屋城の兵乱に、社殿等が焼失しましたが、幸い御神像と宝物等は難を免れ、この年、織田信長公より、また天正11(1583)年と文禄3(1594)年には、豊臣秀吉公より、さらに徳川幕府よりも代々の寄進があり、享保年中に靈元天皇、中御門天皇より女房奉書を賜わってから明治初年まで毎年初穂料が下賜されてきました。

寛永10年(1633)年、石川の氾濫により坊舎等は北丘の神社境内に移りましたが、明治5年、神仏分界により、五坊の中、二之室が神職家となり、道明寺は道を隔てて西に移築され、現在に至っています。また明治10(1877)年には明治天皇の行幸の際、行在所となりました。

近世以降の発展

天正3年(1575)当国高屋城の兵乱に、社殿等が焼失しましたが、幸い御神像と宝物等は難を免れ、この年、織田信長公より、また天正11(1583)年と文禄3(1594)年には、豊臣秀吉公より、さらに徳川幕府よりも代々の寄進があり、享保年中に靈元天皇、中御門天皇より女房奉書を賜わってから明治初年まで毎年初穂料が下賜されてきました。

寛永10年(1633)年、石川の氾濫により坊舎等は北丘の神社境内に移りましたが、明治5年、神仏分界により、五坊の中、二之室が神職家となり、道明寺は道を隔てて西に移築され、現在に至っています。また明治10(1877)年には明治天皇の行幸の際、行在所となりました。

菅公聖蹟二十五拝(かんこうせいせきにじゅうごはい)は、京都から九州(太宰府)まで菅原道真を祀る天満宮の中から、由緒深い25社を選んで順拝する風習である。

明治に入り松浦武四郎が25社を選び、「聖蹟二十五拝順拝双六」を作ったことから始まる。

番号	神社名	住所
第1番	菅原院天満宮神社	京都府京都市上京区烏丸通下立売下ル堀松町408
第2番	錦天満宮	京都府京都市中京区新京極通四条上ル中之町537
第3番	菅大臣神社	京都府京都市下京区仏光寺通新町西入ル菅大臣町187-1
第4番	吉祥院天満宮	京都府京都市南区吉祥院政所町3
第5番	長岡天満宮	京都府長岡京市開田天神2-15-13

第 6 番	與喜天満神社	奈良県桜井市初瀬 14
第 7 番	威徳天満宮	奈良県吉野郡吉野町吉野山 金峰山寺
第 8 番	道明寺天満宮	大阪府藤井寺市道明寺 1-16-40
第 9 番	佐太天神宮	大阪府守口市佐太中町 7-16-25
第 10 番	大阪天満宮	大阪府大阪市北区天神橋 2-1-8
第 11 番	露天神社	大阪府大阪市北区曾根崎 2-5-4
第 12 番	福島天満宮	大阪府大阪市福島区福島 2-8-1
第 13 番	長洲天満宮	兵庫県尼崎市長洲本通 3-5-1
第 14 番	綱敷天満宮	兵庫県神戸市須磨区天神町 2-1-11
第 15 番	天神社	兵庫県明石市大蔵天神町 8-2511
第 16 番	曾根天満宮	兵庫県高砂市曾根町 2286-1
第 17 番	大塩天満宮	兵庫県姫路市大塩町汐咲 1-50
第 18 番	滝宮天満宮	香川県綾歌郡綾南町滝宮 1314
第 19 番	御袖天満宮	広島県尾道市長江 1-11-16
第 20 番	巖島神社天神社	広島県廿日市市宮島町 1-1
第 21 番	防府天満宮	山口県防府市松崎町 14
第 22 番	綱敷天満宮	福岡県福岡市博多区綱場町 5-7
第 23 番	太宰府天満宮	福岡県太宰府市宰府 4-7-1
第 24 番	上宮天満宮	大阪府高槻市天神町 1-15-5
第 25 番	北野天満宮	京都府京都市上京区御前通今出川上ル馬喰町